

月刊 星空の散歩道 3月号

2023年

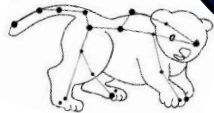
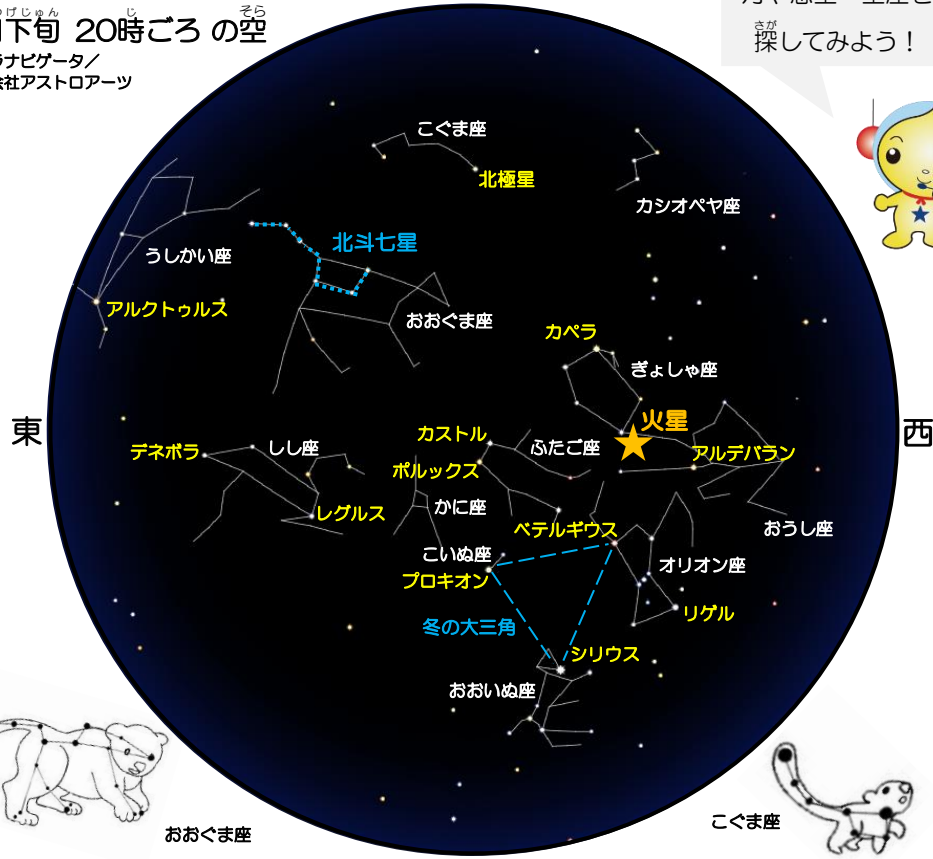
3月上旬 21時ごろ

3月下旬 20時ごろの空

ステラナビゲータ/
株式会社アストロアーツ

北

つき やくせい せいざ
月や惑星・星座を
探してみよう！



おおぐま座



こぐま座

3月の星空

☆宵空の主な星座と明るい星☆

西から南の空に冬の星座、東の空に春の星座が見える。

< 西 > おうし座 (アルデバラン)、オリオン座 (ベテルギウス、リゲル)

< 天頂 > ぎょしゃ座 (カペラ)、ふたご座 (カストル、ポルクス)

< 南 > おおいぬ座 (シリウス)、こいぬ座 (プロキオン)

< 東 > しし座 (レグルス、デネボラ)、うしかい座 (アルクトゥルス)

< 北 > 北極星、カシオペア座、おおぐま座、こぐま座

☆天文トピック☆

3月2日 金星と木星が接近

夕方、西の空で金星と木星がとても近づいて見えます。

3月21日 春分

太陽が春分点 (天の赤道と黄道の交点) を通過する日。

3月24日 月と金星が並ぶ

夕方、西の空でとても細い月と金星が近づいて見えます。

3月28日 月と火星が並ぶ

上弦直前の月と火星が近づいて見えます。

☆月の形の変化☆

3月 7日 満月 ○

3月 15日 下弦 ◐

3月 22日 新月 ●

3月 29日 上弦 ◑

☆3月の惑星☆

金星…日没後、西の空

火星…日没後、天頂付近

木星…日没後、西の空

<天文コラム> 北斗七星

江戸時代の日本では、現在使われている「おおぐま座」などの星座ではなく、中国から伝えられた独自の星座を使っていました。7世紀末から8世紀初頭に作られたと考えられる、奈良県明日香村のキトラ古墳の天井に描かれた天文図の星座も、中国起源のものでした。

キトラ古墳の天文図に登場する星座の中で、現在の私たちが見て一目でわかる並びがあります。北斗七星、つまり中国星座の「北斗」です。

北斗七星は、北極星を探す目印の「指極星」とされていますが、キトラ古墳が作られた時点ではそうではありませんでした。現在の北極星「こぐま座 α 星」は、当時は地球の地軸を伸ばした先にある「天の北極」からは離れていたため、北極星とは見なされていなかったからです。これは地球の地軸が円を描くように動いているためです (歳差運動)。

一方、当時の北斗七星は、「天の北極」に近く、今よりも北の空で常に見やすい位置にありました。時計のないこの時代の人々は、ひしゃくの形が指し示す方向によって時刻を確かめる目印としていたようです。

伊丹市立こども文化科学館 発行日 2023年2月20日

〒664-0839 兵庫県伊丹市桑津3丁目1-36 TEL: (072) 784-1222

HP: <http://business4.plala.or.jp/kodomo/>

